

「少子化対策と計量について」 アンケート実施報告

健康福祉部子ども・家庭局少子化対策課
雇用経済部計量検定所

今後の子どもが豊かに育つ地域づくりに向けた取組の重要な資料とするほか、今後の計量に関する普及・啓発の参考とするため、少子化対策に関する意識などについて、アンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

【アンケート概要】

1. アンケート実施期間

平成29年8月1日（火）から8月15日（火）

2. 意見募集の結果

対象者数 1, 169人

回答者数 822人（回答率 70%）

3. 回答者の属性

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	総計
男	1	21	66	104	97	85	28	402
女	1	41	107	118	82	60	11	420
総計	2	62	173	222	179	145	39	822

1. 三重県子ども条例について

Q1 県では、「子どもが豊かに育つことができる地域社会」の実現をめざし、「三重県子ども条例」を平成23年に定めています。あなたは、「三重県子ども条例」のことはご存じですか。

Q2 Q1で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた方にお聞きします。あなたが「三重県子ども条例」を知ったきっかけは何ですか。

子ども条例について、30.0%の方が「名前も内容も知っている」、「名前だけは知っている」と回答した一方で、70.1%の方が「全く知らない」と回答しており、引き続き、子ども条例について皆さんに知っただく取組が必要です。(図1)

なお、条例を知ったきっかけは「県や市の広報紙」の割合が48.0%で最も高くなっています。(図2)

図1 子ども条例の認知度

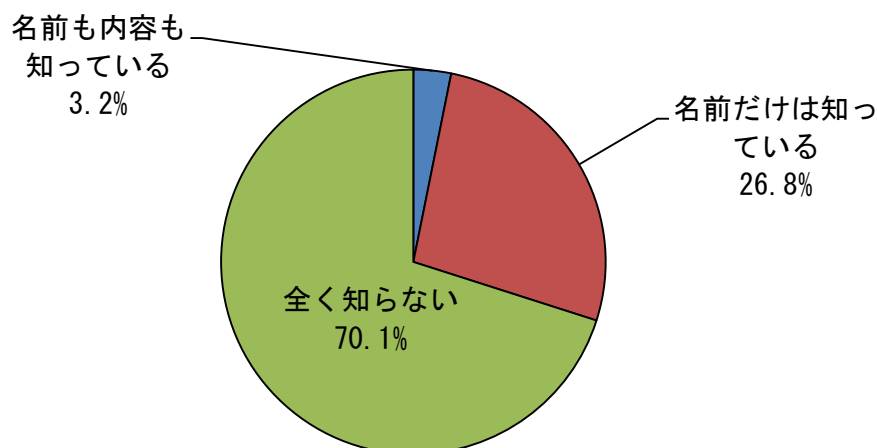
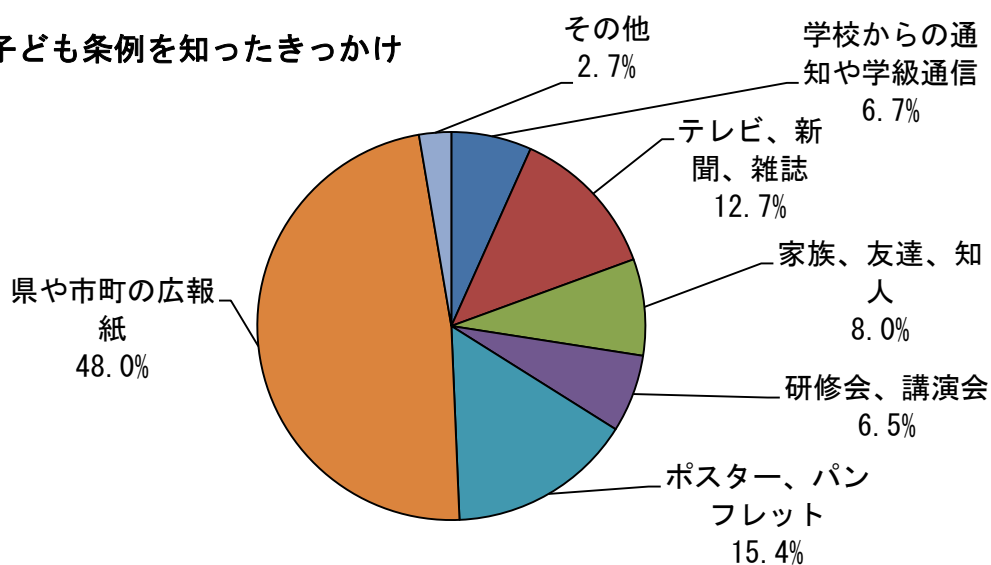


図2 子ども条例を知ったきっかけ



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100とならない場合があります。

2. 少子化に対する認識について

Q3 県では、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」に基づき、さまざまな少子化対策の取組を進めています。あなたは、地域社会においてその効果や成果が現れてきていると思いますか。

Q4 国内において、15歳未満の子どもの数が36年連続で減少していますが、あなたは、こうした少子化の状況に危機感を感じていますか。

少子化に対する危機感について、85.9%の方が「感じている」、「どちらかといえば感じている」と回答しています。（図4）

しかし、県の少子化対策の取組による効果や成果が現れているかという質問に対して、「どちらかといえば思わない」、「思わない」と回答した方が50.1%、「わからない」と回答した方が37.3%と、「思う」、「どちらかといえば思う」と回答した方の12.5%を大きく上回っており、県民が取組の効果や成果を実感できるよう、引き続き少子化対策を進めていく必要があります。（図3）

図3 少子化対策の取組の進展について

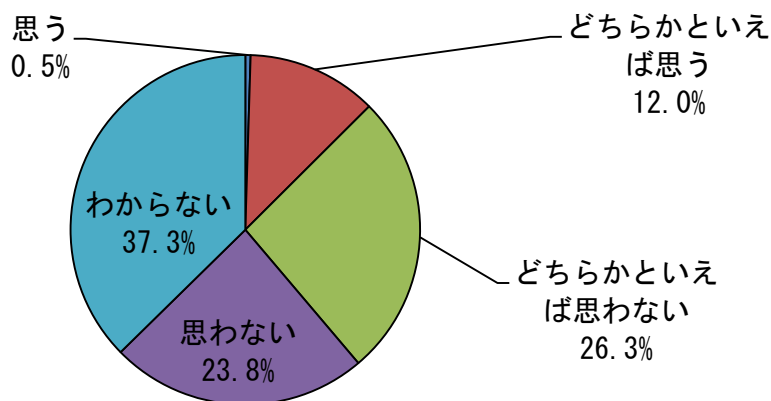
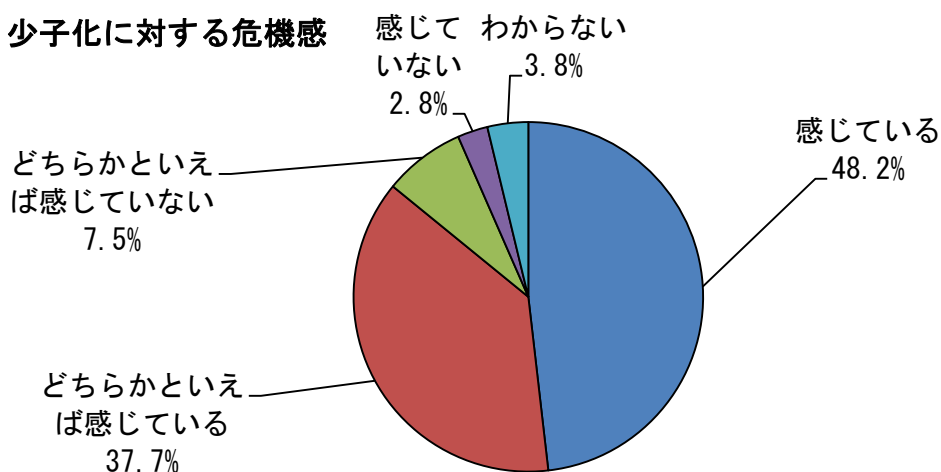


図4 少子化に対する危機感

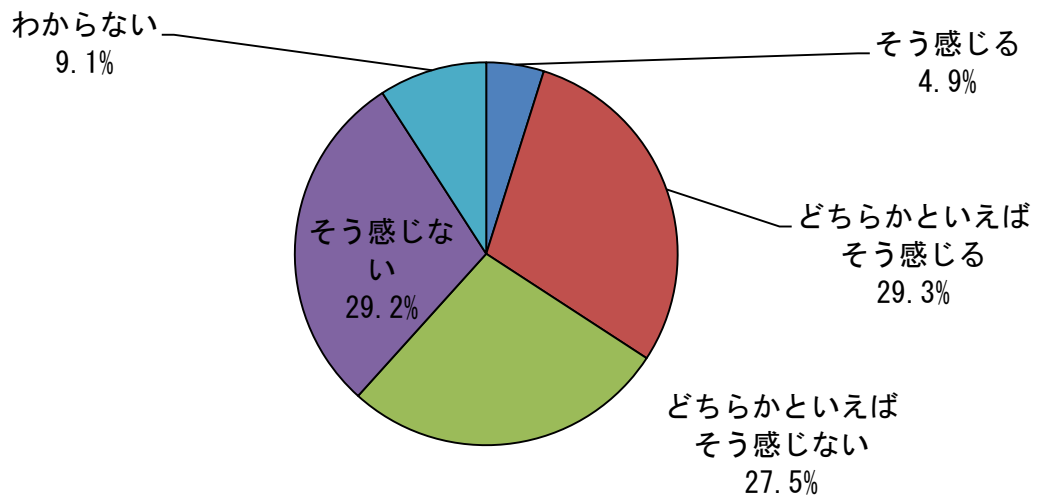


3. 子どもや子育て家庭を応援する取組について

Q5 あなたは、企業や団体等において、子どもや子育て家庭を応援する制度や取組が進んでいると感じますか。

「子どもや子育て家庭を応援する制度や取組が進んでいると感じるか」という質問に対して、「どちらかといえばそう感じない」、「そう感じない」と回答した割合は56.7%、「わからない」と回答した割合は9.1%と、「そう感じる」、「どちらかといえばそう感じる」と回答した割合の34.2%を上回っており、取組が十分でないと感じる割合が高いことから、引き続き、企業・団体等への働きかけを進めていく必要があります。

図5 子どもや子育て家庭を応援する取組等が進んでいると感じるか



3. 家庭における育児や家事の分担について

Q6 あなたは、祖父母が育児や家事の手助けをすることは望ましいと思いますか。

Q7 父親が育児をすることについて、あなたはどのように思いますか。

「祖父母が育児や家事の手助けをすることが望ましいと思うか」という質問に対して、86.7%の方が「とてもそう思う」、「ややそう思う」と回答しています。(図6)

また、「父親が育児をすることをどう思うか」という質問に対して、「父親は時間の許す範囲内で育児をすればよい」、「父親も母親と育児を分担するなど積極的に参加すべき」と回答した割合が92.5%と、「父親は外で働き、母親が育児に専念すべき」と回答した割合の2.9%を大きく上回っています。(図7)

図6 祖父母による育児や子育ての手助け

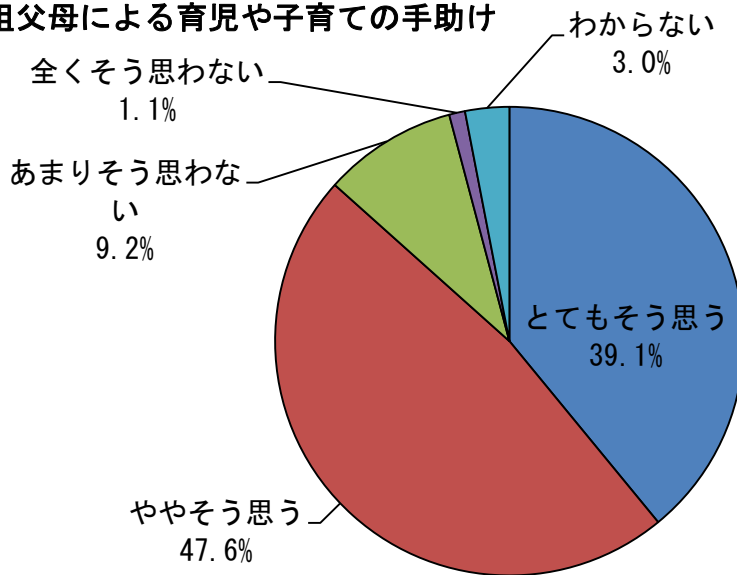
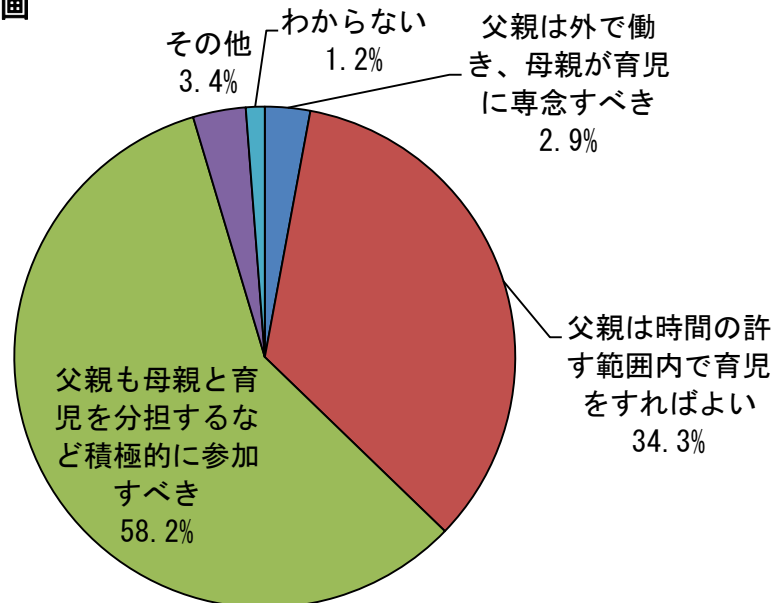


図7 男性の育児参画



5. 男性の育児休業取得について

Q 8 男性が育児休業を取得することについて、あなたはどのように思いますか。

※育児休業とは、子どもが1歳（一定の場合には1歳半）になるまで育児のために休業することができる制度のことです。

Q 9 あなたは、男性の育児休業を促進するためには、どのような取組が必要だと思いますか。

「男性が育児休業を取得することをどう思うか」という質問に対して、80.5%の方が「良いと思う」、「どちらかといえば良いと思う」と回答しています。（図8）

「男性の育児休業を促進するために、どのような取組が必要か」という質問に対しては、「男性の育児参画に対する職場の理解の向上」が76.8%、「育児休業を取得しても昇格等に影響しない人事制度の整備」が60.5%、「男性自身の意識の変化」が57.5%の順で回答した割合が高くなっています。（図9）

図8 男性の育児休業取得

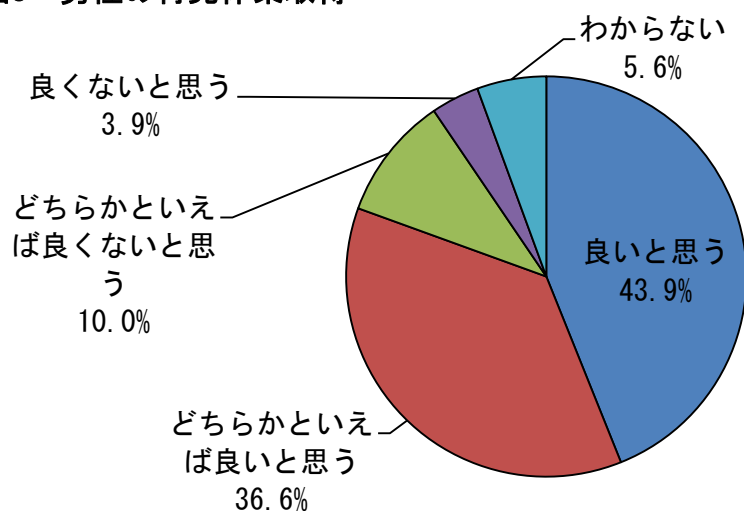
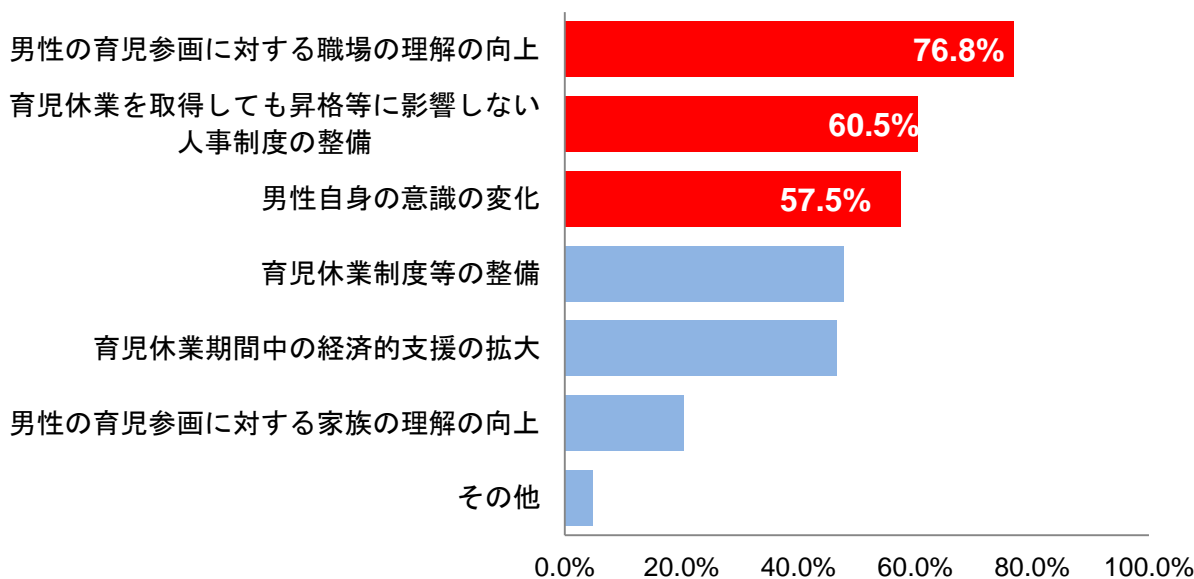


図9 男性の育児休業促進に必要な取組



6. 少子化対策について

Q10 少子化対策や施策について、効果的だと思うことをご自由にご記入ください。

効果的だと思う少子化対策や施策について自由に記入をお願いした結果、様々な観点から多くのご意見やご提案をいただきました。

主な意見

①子どもや子育て世帯等に対する経済的支援の充実

- ・奨学金の充実など教育費用の軽減
- ・行政等による結婚祝い金の拋出
- ・子育て世帯の税負担の軽減
- ・ひとり親家庭への手当の増額

このほか、多子世帯への経済的な支援の充実を求めるご意見もありました。

②子育てと仕事の両立を図りやすい環境の整備

- ・待機児童の解消
- ・学童保育の充実
- ・病児保育の充実
- ・企業や従業員に対する育児の重要性や理解を促す講習や教育の実施
- ・子育て中の女性の職場復帰や再就職の支援
- ・育児休業などの制度の整備
- ・男性の育児参画の推進

③楽しく子育てができる「まちづくり」の推進

- ・買い物など妊娠時の移動手段の支援

④結婚支援の充実

- ・非正規労働者の労働条件の改善
- ・若者の所得の向上
- ・結婚のプラス面の積極的な発信

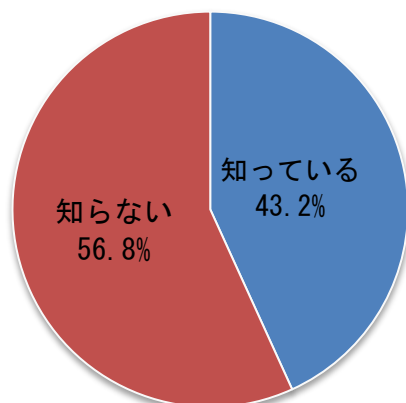
⑤情報発信の強化

- ・行政が提供している様々な子育て支援施策、婚活の情報などの積極的な情報提供

7. 計量について

Q 1 1 はかりの定期検査について

あなたは、取引や証明に使用するはかりは2年に1回、県等が行う定期検査を受ける必要があることをご存じですか。

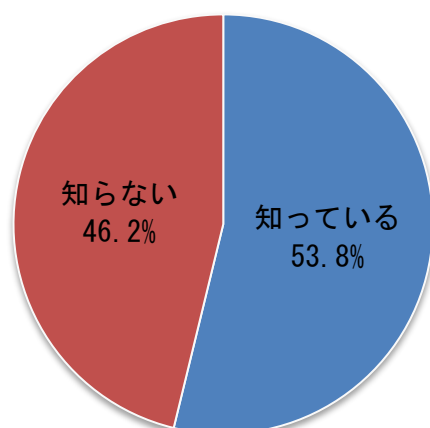


「はかりの定期検査」については、約4割の方が知っているという結果でした。はかりを取引や証明に使っていないと直接関係がないことからこのような結果であったと考えられます。はかりの検査日程については、検査実施の約1カ月前に三重県公報、計量検定所ホームページ及び対象市町の広報にも掲載しています。また、対象者には約1週間前にハガキを送付しています。

Q 1 2 メーターの有効期限について（電気・ガス・水道）

あなたは、家庭で使用している電気・ガス・水道メーターに有効期限があることをご存じですか。

※電気：5～10年、ガス：7年又は10年、水道8年

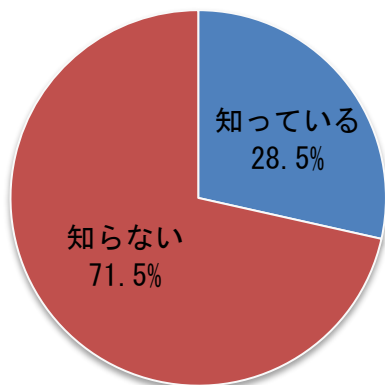


「電気・ガス・水道メーターの有効期限」については、約5割の方が知っているという結果でした。電気・ガス・水道メーターは各家庭に必ず取り付けられている物であり、特に電気とガスメーターは見えるところに設置されていることから、見たことのある方が多かったと考えられます。

Q13 メーターの有効期限について（燃料油、タクシー）

あなたは、燃料油メーター（ガソリン、軽油、灯油等を給油する計量器）やタクシーメーターに有効期限があることをご存じですか。

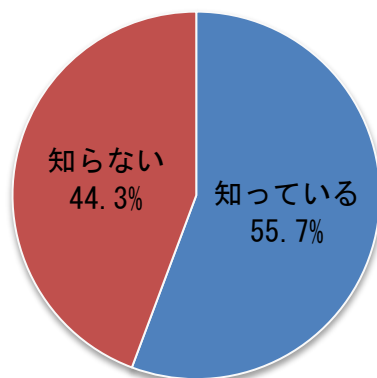
※燃料油：5年又は7年、タクシー：1年



「燃料油メーター、タクシーメーターの有効期限」については約7割の方が知らないという結果でした。燃料油メーターについては、有効期限のシールが貼ってありますが、タクシーメーターについては貼付スペースの関係上、有効期限のシールが貼っていないことが要因の一つだと考えられます。

Q14 内容量の表記について

あなたは、計量販売される商品の内容量は、トレーやラップなどの重さを含まない正味量を表記しなければならないことをご存じですか。



「内容量の表記」については、約6割の方が知っているという結果でした。普段の買い物の中で日常的に内容量が表記されている商品を目にしているからだと考えられます。

Q15 計量に関する意見について（自由回答）

計量に関してご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

「計量に関する意見」については、155名の方からご意見をいただきました。

多かった意見としては、「計量のことについて知らなかった」という意見でした。これについては、平成29年8月22日に小学生を対象とした「夏休み子ども計量教室」を初めて開催しました。今後も引き続き開催し、普及啓発に努めていきたいと考えています。

また、「抜き打ち検査はやっているか」という意見もありました。これについては、毎年7月～8月、11月～12月頃、スーパーで販売されているパック詰め商品に表示されている内容量が不足していないか立入検査を行っています。

このほか、「消費者は信じるしかない」や「確認のしようがない」という意見もありました。

今回のアンケート結果及びいただきましたご意見は、今後の計量行政の推進のための貴重な意見として参考とさせていただきます。アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。